

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2779300355		
法人名	社会福祉法人ラポール会		
事業所名	くみのき苑グループホーム		
所在地	大阪狭山市東菜萁木4丁目1160-2		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年11月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人であっても住み慣れた地域で役割を担って生き活きた日々を送っていたか  
けない支援を行っています。特別なリハビリは行っていませんが、日常生活全般をリハビ  
事作りや買い物、洗濯等家事全般を、入居者の方が中心になれるようなサポートを心掛  
人が出来ることを見つけ継続し、役割を持って頂くことで認知症状を緩やかなものし、安心  
頂けるよう支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

企業理念に加えて各フロアに「自立支援を促し、その人らしく安心して暮らせる生活の場を  
「地域社会に参画し、地域における活動拠点の場としていきます。」等々と独自の理念を掲  
は、その理念を共有して日々の実践につなげている。運営推進会議は、市担当職員、民  
相談員、事業所職員、利用者家族の殆どが参加して、活発に意見が交わされサービスの  
ている。年に三回、消防署の協力を得て、夜間対応も含めて消防訓練を行っている。消防  
レスキュー隊が参加しての訓練である。火災に際しては、通報後5分で消防車が到着し、  
体制となっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、毎日の朝礼にて唱和し、共有している。	企業理念に加えて各フロアに「自立支援を促し、その人らしく安心して暮らせる生活の場を提供します」「地域社会に参画し、地域における活動拠点の場としていきます。」等々と独自の理念を掲示し、職員は、その理念を共有して日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のスーパーやドラッグストア、理容店等を日常的に利用し、地域のボランティアを事業所に受け入れる等して交流を図っている。	グループホームには、隣接した住宅が全くない。従って、自治会が存在しない。近くのスーパーへ買い物に出かけ、店員と親しくしたり、社会福祉協議会から派遣して頂いている傾聴ボランティア、歌や料理のボランティアを受け入れ交流を図るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や市の就業支援を利用している若者を受け入れ、認知症ケアの現場を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開き、各種の報告を行い、スライドを通じて、日々の利用者様方の様子を伝えている。またご家族様等から頂いたご意見を通じて、サービス向上を図っている。	利用者家族、市担当職員、民生委員、介護相談員、事業所職員、等が参加して、隔月に開催し、利用者家族の殆どが参加して、活発に意見が交わされサービスの向上に活かしている。地域には自治会組織がなく、民生員が地域代表を代行している。このたび、市役所担当者の尽力で近隣の自治会への加入が実現した。	自治会加入を契機に、地域行事へ参加したり、認知症高齢者介護の相談を受けたり、逆に運営推進会議に参加いただいたりして、地域との交流が活発になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターの職員と連絡を取り合い、協力関係を築く努力をしている。	2か月に一度の運営推進会議、地域密着型事業所連絡会の他、月に一度の訪問で色々と相談したり、指導を得ている。このたびは、市役所担当者の尽力で近隣の自治会への加入が実現した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回身体拘束委員会による勉強会を行い、全ての職員が正しい知識を身に付け実践出来るよう取り組んでいる。	身体拘束適正化対策委員会を2か月に一度開催し、適正化のための指針も整備されている。基本的な考え方は、厚生労働省の「身体拘束ゼロへの手引き」による。研修会も年に2回実施し、安全を確保しながら自由な暮らしを支える工夫について学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な身体拘束委員会と共に、職員は法人内外の研修に参加し、虐待が見過ごされる事のないよう、注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている利用者様や法人内外の研修を通じて、それらを活用出来るよう見識を蓄えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族に説明、理解・納得を図っている 運営推進会議等で、その都度説明し、質疑応答の時間を設け、十分にご理解を持って頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会や行事、運営推進会議等を通じて、利用者様、ご家族様が思いを話せる環境や雰囲気作りを行っており、頂いた意見に対して真摯に改善を図っている。	利用者とは、日常の会話の中から、家族等とは、来訪時や運営推進会議の中からなど、色々な機会の中から意見要望を聞き出すようにしている。外出に関する事、趣味に関する事、ケアに関する事、談話室が欲しい等、出された要望は、可能な限り迅速に実現するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員室での会話やユニット会議、全体会議等を通じて、個々の職員の意見や提案に耳を傾け、改善を図っている。	毎月一回、ユニット会議や全体会議を開催し、行事に関すること、料理に関すること、外出に関すること等、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。個人面談の機会があり、ケアの相談も受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員と定期的に面談する機会を持ち、一人一人の目標や思いに耳を傾け、職員の個人目標の設定やその達成に向けての支援に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に積極的に参加し、現場にフィードバックする事により、働きながら力量を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回の地域密着事業所と現状報告を行い、知りえた情報を元にサービスの向上に反映している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、ご家族様との面談では出来る限り話しやすい雰囲気や話題を選び、思いや困りごとを自然に話して頂けるような関係作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から、ご家族様との関係作りに努めている。入居後も日々のご様子をお伝えし、不安感を与えない様にご理解いただけるまで説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に、ご本人とご家族様から不安ごと、心配事や思いを伺いサービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築くため、ご本人と積極的に関わっている。また他入居者様と円滑な人間関係が築けるよう職員が間に入り見守っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様との面会時間を大切にしている。一緒にフロアで過ごされたり、要望があれば法人内入所中の家族面会に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活歴やバックグラウンドを知り、家族や親せきは勿論、馴染みのあったお友達とも交流を絶やさないでいられるよう受け入れ、支援している。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、友人や馴染みの場所の喫茶店や美容院、買い物などへの外出を家族の協力を得ながら支援している。かつて、教員をしていた利用者には、教え子が訪ねてくる事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、テーブル配置や椅子の位置など環境面を考え、良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、気軽に来苑していただける雰囲気作り。退所後も、近況報告の電話を頂いたり訪問された際、ご家族の不安を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に嗜好や生活習慣、意向などを伺い、その人らしい暮らしができるように努めている。意思疎通が困難となられた場合、バックグラウンドを再確認し、生活を観察しその人が求めている事、必要な事を常に把握できるよう職員間で話し合っている。	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で聞いている。食事の希望や趣味等を聞き出し、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。利用者の生活歴などは、職員全員が把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の中で、昔の思い出や体験を聞く機会を持ち、生活歴やご家族様の話も伺い、在宅からサービス利用の経過について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で関わりを持ち、記録し、申し送る中で、ご本人の心身状態やADL等について、現状を把握し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中でご本人の希望や意向の把握に努め、ご家族様や医療関係者、福祉用具の専門員等と話し合いを行いながら、現状に即した介護計画の作成に努めている。	介護計画の目標期間は6ヶ月としているが、変化が起きた時には、担当者会議で支援経過や本人・家族の要望をもとに話し合い、臨機応変に見直しをするようにしている。介護計画は、職員全員が把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や認知症状の変化、ご本人の云われた言葉等を個別記録に残し、職員間で共有し、ケアや介護計画の改善に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況や、その時々ニーズ、要望に対して、前向きに検討を行い、新しいアイデアを考え、柔軟に対応、サービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアやスーパーでの買い物、理容店でのカット等、ご本人が心身の力を発揮しながら、生活を楽んでもらえるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人とご家族様の納得を得て、定期的に内科と精神科のDR.に往診に来てもらっている。またその疾患や生活歴に応じて、ご家族様の協力を得ながら、地域の医院に通院してもらっている。	かかりつけ医は、本人や家族等の希望する医療機関になっている。協力医以外の受診に家族が対応するときは、近況等細かな情報を提供している。内科医以外の耳鼻科・眼科等の受診には家族が同行し受診結果も報告して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職として、日々の関わりの中で得た情報や気づきを、医療職に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や処置を受けられるように支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリー等を用いて、情報伝達を行っている。また退院時には担当医や看護師、相談員と調整し、早期退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に備えて、特養の事前申し込みを促している。状態が重篤化した場合は改めて、ご説明し、話し合いの場を持ち、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の病院等とも連携しながら、支援に努めている。将来的には看取りも視野に入れた整備を行っている。	重度化した場合や終末期のむかえ方については、利用当初に事業所として出来得る事、出来ない事を家族等に説明している。重度化した場合の介護の指針や同意書の作成もしているが、家族の同意書はとれていない。	本人、家族等をはじめとする関係者等の意向がずれたまま重度化の時期を迎えることのないよう、重度化した場合の介護の指針を示し、共通認識のうえで、家族の同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修や日々の業務を通じて、個々の職員が急変時や事故発生時の対応が出来るよう、日々努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間に三度消防訓練を実施している。災害時には、併設の特養が地域の避難場所の役割を担っている。 非常時の備蓄食の整備をしている。	年に3回、消防署の協力を得て、夜間対応も含めて消防訓練を行っている。近隣住民役として、特養の職員が代行している。消防車だけでなくレスキュー隊が参加しての訓練である。火災に際しては、通報後5分で到着し救助にあたる体制となっている。災害時に備えての備蓄品も整っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個々の性格や状態を把握し、尊厳の念を持って、日々のケアや声掛けを行っている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない目線を合わせての言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも職員室の書庫に施錠して保管されている。接遇やプライバシーの保護についての研修も定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状を見ながら可能な限り選択が出来るよう声掛けの工夫や、表情を観察をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いに寄り添い、各々のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院への外出や、訪問美容を利用。衣類の汚れはすぐ更衣し、毎日の身だしなみに留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の食材を意識し、職員と一緒に安全に配慮した食事作りを行っている。食事は職員と一緒に同じものを頂いき自宅の食卓を意識している。	利用者の好みを聞いて一緒に献立を考えたり、近くのスーパーで買い物をし準備、食事、片づけ等を共に行っている。法人の畑には、季節の野菜、白菜、サツマイモなどや果物、ブルーベリー、ビワ、サクランボなどが育てられていて、時には食卓を彩る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分摂取量を記録に残し、個々の嗜好に合った飲み物や嚥下状態に合わせた物を提供する事し、一日の摂取量や栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、週に一度、歯科DRや歯科衛生士に見てもらいながら、口腔ケアに努めている。職員もケアの指導を受け実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回の排泄を記録に残し、個々の入居者様方の排泄リズムの把握に努める事により、不要な失禁やパットの消費を減らす努力をしている。夜間は安眠を重視し排泄用具の工夫をしている。	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、さりげなく誘導をし、立位が取れない利用者に歩行訓練などでオムツをリハビリパンツに替えるなど、改善をそれぞれについて考え、一人ひとりに合った支援がされている。夜間は1時間毎に見回りを行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が様々な疾患やBPSDに繋がる要因であると理解し、嗜好にあった飲み物や運動の機会を提供し、便秘にならない様工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入居者様に入浴を楽しんで頂く為に、ご本人の要望を聞きながら、入浴を楽しんで貰っている。	一応入浴日は週2回としているが、曜日は固定せずに何時でも入れるよう一人ひとりの習慣やその日の体調の変化を配慮しながら、個々にそった支援をしている。入浴剤やゆず湯や菖蒲湯など、季節の湯も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を知り、その入居者様の心身の状態に合わせて、就寝介助を行っている。また基本的には、日中の意欲的な活動を通じて、夜間の安眠へ繋げる支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の職員が薬への知識を増やし、処方された薬の内容を把握に努めている、また内科や精神内科DR、医療職に適宜アドバイスをもらいながら、服薬支援と入居者様の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好や性格、生活歴を把握し、ご本人が意欲的になれる活動の支援に努めている。またフロア内の人間関係に配慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう、席の配置等工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には屋外への散歩や近隣への買い物などの機会を提供している。またご家族様に協力を得て、外出や遠足の機会を設ける事により、楽しみを提供している。	利用者一人ひとりのその日の希望に添って、事業所の敷地を散歩したり、近くのスーパーへ買い物に出かけたり、ボランティアの応援を得て海遊館や滝畑ダムへ出掛けたりもしている。敷地内の畑で、芋ほりや栗拾いなどもする。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しくなっている為、行っていない。買い物の際、支払い・お釣りを受け取る支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、清掃や整理整頓を行い、不快や混乱を招くことの無いよう、環境整備に努めている。また季節に応じた飾りや書や写真を掲示する等して、居心地よく暮らして頂けるよう工夫している。	ゆったりしたリビングルーム兼ダイニングルームでは、利用者がソファで、それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりして、くつろいでいる人もいます。廊下には、季節の飾りつけや、行事の写真が掲示してある。そこには畳コーナーがあり、落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様に居室があり、お一人になりたい時には日中であっても居室で過ごして貰う機会を提供している。またリビングにおいても、座席やソファの配置に工夫を行い、思い思いに過ごせるよう環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の入居する以前の生活を尊重し、馴染みの家具や使用されていた物品等、可能な範囲で持ってきて貰い、その人らしい居室や生活が送れるよう支援している。	広くゆったりした居室で、洗面台とクローゼットがある。利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、今までの生活習慣に合わせて、自由に配置するなど、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。三分の一の居室が畳の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ、浴室等の環境において、個々の入居者様が安心して安全に過ごして貰えるよう名札や手すりなどを設置し、廊下には不要な物を置かない等、環境面の配慮を行っている。		